※令和４年度以降入学生用

学校番号	T2101

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	（併）数学Ａ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	最新数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	なし						
レポート	６通		スクーリング	１６回（内２回は定期考査）			

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・筆記用具・教科書を必ず持参するようにしてください。
・授業では、講義のあと、レポート課題をやってもらいます。まずは、前半の講義をしっかりとうけてください。
・授業で出すレポートはすべて提出してもらいます。レポートが８割以上できていないと合格にならないので注意してください。すべてのレポートに合格しないと単位修得はできません。
・レポート課題のわからない部分は、基本は教科書等で調べながら自分で学習を進めてもらいますが、自分だけで課題を解決するのが困難な場合は先生に質問にきてください。

２　学習の到達目標

場合の数と確率について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・場合の数と確率についての基礎的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間生活との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
中間考査範囲	場合の数と確率	1．場合の数 ・集合 ・集合の要素の個数 ・樹形図、和の法則、積の法則 ・順列 ・組み合わせ	a:・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列及び組み合わせの意味を理解し、順列の総数や組み合わせの総数を求めることができる。 b:・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 c:・事象を場合の数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・レポート ・考査問題等	・レポート ・考査問題等	・レポート ・振り返りシート ・観察等

※令和４年度以降入学生用

期末考査範囲		2.　確率 ・確率の意味 ・確率の計算 ・確率の基本性質 ・和事象の確率 ・余事象の確率 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件付き確率 ・期待値	a:確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 b:・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 c:　・事象を確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	・レポート ・考査問題等	・レポート ・考査問題等	・レポート ・振り返りシート ・観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度